

ニュースレター

ゆりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成 28 年 8 月発行 No.4 7 号



オオバナアリアケカズラ

木道利用に係るガイド講習会を開催

沖縄森林管理署及び九州森林管理局西表森林生態系保全センター(以下「沖縄署等」という。)では、西表島の森林環境教育の拠点施設として、平成 20 年度に仲間川の支流(北舟付川)に隣接するマングローブ林及びサガリバナ林内に、延長 1 5 0 m の木道を整備しています。



講習を受講するガイドの方々

この木道は、森林環境教育の推進を目的として設置したもので、一般の方の利用を制限させて頂いています。

木道利用を希望する場合は、沖縄森林管理署等が実施する「木道利用に係るガイド講習会」を受講されたガイド等の方々と、安全対策に十分留意することを条件に利用していただくこととしています。

また、利用に当たっては、木道の利用状況等について報告していただくこととしています。

今回、平成 28 年度に木道の利用を希望されるガイドの方々を対象に、木道利用に係るガイド講習会を開催いたしました。

森の巨人たち百選「仲間川のサキシマスオウノキ」の モニタリング調査を実施

森の巨人たち百選に選定されている「仲間川のサキシマスオウノキ」のモニタリング調査を 6 月 24 日(金)に実施しました。

調査は、樹高・幹周り・板根の測定調査、光環境の変化、周囲の植生、枝張りの状況等を実施しました。結果、変化等は見受けられませんでした。アコウが着生しており、今後、サキシマスオウノキの生育に支障を与えることが危惧されます。また、経時の台風による数箇所の枝折れ箇所の腐朽が年々顕著になって発現してきています。



大原中学校の三大行事「古見岳登山」を支援

5月7日（土）に、竹富町立大原中学校の三大行事の一つ「古見岳登山」が行われ、森林環境教育の一環として当センター職員と大原、租納両森林事務所の森林官が参加支援しました。

この「古見岳登山」は、約7時間というただひたすら山中を歩き続ける長丁場ですが、生まれ育った郷土の自然の素晴らしさ、厳しさ、人と自然のつながりを実感すること、また、忍耐力を養い、励まし合う心を育てることを目的として実施されました。

生徒26名、先生、保護者等総勢72名が参加しました。ユチン橋での出発式の後、それぞれ4班に分かれて8時30分に出発しました。

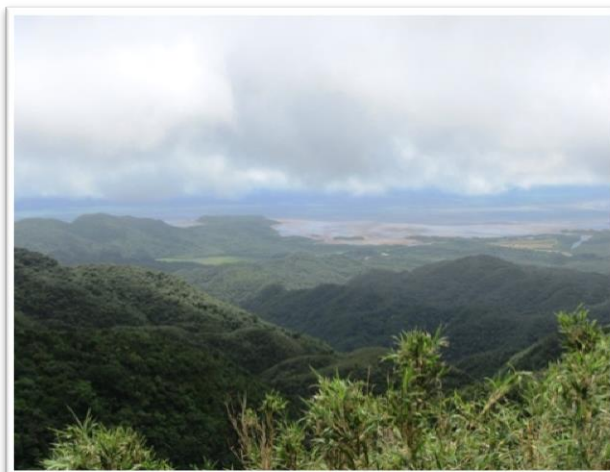
頂上に向かう途中、水遊びや滝上での記念撮影などを行い、頂上の古見岳に12時過ぎに到着しました。頂上では、生徒が達成した喜びで歓声を上げる中、記念撮影を行い、昼食を摂った後、元気に相良川登山道を目指しました。

急斜面の足場の悪い岩場や沢の横断等、大変な道のりですがロープをつたったりし、生徒たちは、最後の最後まで声を掛け助け合いながら16時半頃全員無事に下山しました。

解散式では、各学年の代表が「三大行事の古見岳登山はキツかったが西表島横断も頑張りたい」「個人目標としては16時前には到着したかったができなかった」「踏破したことは自信となったが二度と登りたくない」等感想を述べていました。



滝上での記念撮影



古見岳山頂からの風景

「カヤック運航に係る安全確保について」講習を開催

5月13日（金）にカヤックの安全運航について、当センター職員と大原、租納両森林事務所の森林官を対象に浦内川でカヤック講習を実施しました。

井上所長から、安全に運航するための注意事項等について説明があり、次に車両によりカヤックを運搬する場合の運搬用台車の確実な固定及び安全な走行について指導を受けました。その後、服装、カヤックや装備品等について、安全点検表に基づき点検を行い、実際に浦内川でカヤックを運航しました。

水深の浅いところや水面近くの障害物等に注意を払うなど、安全な運航と確実な緊急連絡体制を確認し講習を修了しました。



カヤック講習での運航

仲良川流域におけるマングローブ林倒伏被害調査を実施

6月13日に仲良川流域において発生しているマングローブ林倒伏被害地の調査を行いました。

台風被害の後、どのように再生していくかを継続的に調査するもので、定点撮影や被害地の状況を観察しました。

昨年度の調査から大きな変化はありませんでしたが、被害地下流域では稚樹が多く発生しているものの上流域右岸では稚樹の発生はほとんど見られませんでした。

なお、この倒伏被害は、八重山地方を襲った観測史上1、2位の最大風速65～70mを記録した平成18年9月の台風13号及び平成19年9月の台風12号によるものです。



稚樹多く発生している箇所



稚樹の発生があまり見られない箇所

石垣島ハーリー大会に参加

石垣市で海神に安全を祈願する爬鰐船（ハーリー）競争大会が6月8日行われ、大勢の市民や観光客で賑わいました。当センターも環境省石垣自然保護官事務所の職員と10名の合同チーム（R&F）を結成し、団体ハーリー競争に参加し祈願しました。

男女混成チームで練習約1時間という不安が残る中での参加でした。

参加70チーム中で、何とか最下位は逃れ各自が安堵の表情でした。

試合後は、検討を称え反省会を行い、両事務所の今後の親睦も深まりました。



オオバナアリアケカズラ（キョウチクトウ科） *Allamanda cathartica*

オオバナアリアケカズラは、熱帯地方を代表するつる性の花木で花の直径は10cm～12cmほどで黄色の花弁が色鮮やかです。

丈夫で花つきが良く、開花時期は4月～10月。

庭先や街路樹、壁面緑化に良く見かける低木の常緑蔓植物です。土壌を選ばず良く育つので公園や街路樹としてよく植栽されています。別名アラマンダとも呼ばれています。

西表島に生育する外来種

タチアワユキセンダングサ



(キク科 Bidenspilosa)

熱帯アメリカ原産、現在は世界各地に分布。キク科の一年草で、高さは0.5～1.5m。センダングサ属は世界に約240種あり、日本には数種が自生する。日本へは弘化年間(1844-48年)に渡来し、現在は九州地方南部、沖縄県、小笠原諸島などに分布する。日本の侵略的外来種の一つとされ、沖縄本島では、サトウキビ畑の強害草となっている。虫媒花であるが通年開花する。

瘦果は棘で人や動物に付着したり、雨などで伝播される。頭花が白色の発達した舌状花を有するので、ビデンス等の総称や通称名で、観賞用に栽培されることがある。このような栽培にあたっては、逸出して雑草化しないように注意する必要がある。(引用：国立研究開発法人 農業環境技術研究所)

侵入生物 / 外来生物とは？

人間によって自然分布域以外の地域に移動させられた生物を「外来生物 / 外来種」「侵入生物 / 侵入種」「移入生物 / 移入種」などといいます。貿易大国の日本では、これまでに2000種を超える外来生物が記録されています。外来生物は、移動先で繁殖集団を形成し(定着または帰化と呼ばれます)、その土地の生態系・農林漁業・人間の健康や日常生活などに対して影響を及ぼすことがあります。大きな影響を及ぼすものを、特に「侵略的外来生物」といい、世界的な問題となっています。

原因は何か？

外来生物問題が生じる原因は、様々な形で人為的に生物が運ばれ、野外に放たれること(導入と呼ばれます)です。導入されたものの一部が、野外で繁殖集団を形成し(定着と呼ばれます)、長年にわたって様々な影響を及ぼすようになります。運ばれ方(侵入経路・導入経路)は様々ですが、いずれも我々の日常生活と密接に関係しています。運ばれ方によって予防方法が異なるため、導入経路の特定は、防除戦略を立てる上で重要な課題の一つです。

その影響は？

外来生物による影響は、運ばれる生物の種類と定着先の環境の組み合わせによって様々です。生態影響(その地域在来の生物多様性・生態系への影響)のほか、外来生物の持ち込みによって、いわゆる害獣・害虫・雑草などと同様の農林水産業被害・人間への健康被害を新たに引き起こすこともあります。

(引用：国立環境研究所 侵入生物データベース)

オキナワキノボリトカゲ (在来種)

[爬虫綱 有鱗目 トカゲ亜目 アガマ科] 絶滅危惧Ⅱ類



石垣島に赴任して、西表島で最初に出会ったのが、このオキナワキノボリトカゲでした。

つぶらな瞳の純粋さが写真からもにじみ出ていますよね！

全長20～30cm程度のトカゲ。

頭胴長：オス70～80mm、雌60～66mm、尾長は頭胴長の1.8～2.6倍。頭部・胴部背面に凹凸のある鱗が不規則にならび、鼓膜は皮下に埋もれて露出しない。

自然分布：日本固有種、奄美諸島、沖縄諸島の主要な島

生息環境：主に樹上性だが、地上にも降りる。林縁部の日陰部分によく見られ、山地にも人家付近にも見られる。

西表島の似たものの植物

アダン

V s .

タコノキ



区 分	木本類
分 布	鹿児島、(トカラ列島以南)、沖縄、中国南部、東南アジア
葉 の 形	被針形
葉 の 縁	鋸歯
葉の付方	束生
集 合 果	集合果
花・萼 色	黄白色

区 分	木本類
分 布	小笠原諸島の固有種
葉 の 形	被針形
葉 の 縁	鋸歯
葉の付方	束生
集 合 果	集合果
花・萼 色	雄花は黄白色、雌花は淡緑色

説	海岸の近くの荒れ地や湿地などによく生え、高さ 2～6m になる常緑の小高木で、太い枝をまばらに出し、支柱根を出します。この支柱根が木を安定させ、風倒を防いでいます。葉は革質で縁には鋸歯状の短いトゲがあります。
明	アダンは雌雄異株であり、夏季に雄株は房状の花序、雌株は球状で小型の花序をつけます。実は集合果でパイナップルによく似ています。実は食べられますが、あまり美味しくありません。ヤシガニが食べます。

説	沖縄によく自生しているアダンの親戚ですが、小笠原諸島の固有種です。雌雄異種の高木で、葉は乾燥に強いやや肉厚の刀剣状で、まさに鋸のような鋸歯がついています。
明	気根を出し、根元は沢山のつかえ棒で支えているように見えます。初夏に黄白色の雄花、淡緑色の雌花をつけ、夏に数十個の果実が固まったパイナップル状の集合果をつけます。果実は秋にオレンジ色に熟し、茹でて食用としたり、食用油を採取する原料となります。



お知らせ

平成 28 年 4 月 1 日付け

人 事 異 動

[転出者] 渡 邊 昭 博 (屋久島森林生態系保全センター)

吉 田 真 佐 也 (鹿児島森林管理署)

[後任者] 古 閑 智 之 (鹿児島署から)

山 部 国 広 (佐賀署から)

マングローブに関するナビゲート型「マングローブ紹介サイト」のご紹介です。

マングローブについて情報等を活用されたい方は、特定非営利活動法人 ManGlobal (マングローバル)

<http://www.manglobal.or.jp> へ アクセスしてはいかがでしょうか。

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

